

令和5年度 授業改善推進プラン <国語>

| | 今年度の課題 | 改善策 | 年度末評価 |
|------|--|---|-------|
| 第一学年 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上が課題である。漢字の読みは比較的できているが、書くことが苦手な生徒が多い。また、覚えられても文章にすると書けなくなってしまう生徒が多いのが現状である。また、自分の考えを表現することが苦手な生徒が多い。話すことはできるが、プリントに書く学習になると書けなくなってしまう。文章表現における語彙も増やしていくことが必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> 漢字プリントを作成し、家庭で漢字の学習ができるようにする。漢字プリントでは、新出漢字を覚えるだけではなく、例題を作成し漢字を日ごろ使えるように続けていく。 書く機会を授業の中で増やしていく。作文を書く際には身近な題材を取り上げ、生徒が自身の経験や体験から文章表現ができるように工夫を行う。 | |
| 第二学年 | <ul style="list-style-type: none"> 昨年に引き続き、基礎学力の向上が課題である。漢字の読み書きはもちろん、語彙や文法等、基本的な知識の定着に課題がある生徒も多い。 正確に文章を読解すること、筋道立てて自分の考えや思いを説明することを苦手とする生徒が多い。読解力、表現力を向上させることが求められるが、そのためにも、基礎となる漢字の読み書きや語彙の学習に力を入れる必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> プリントによる漢字学習とテストと再テストを繰り返して定着を図る。 語彙力を向上させるために国語辞典を活用することを習慣付けさせ、単元ごとに授業内で確認している。 聞く力と読み取る力を伸ばすために、聞き取りテストや短時間でできる読解問題を定期的実施する。 | |
| 第三学年 | <ul style="list-style-type: none"> 文章を読めない生徒が多く、論説的な文章において、それが顕著に表れている。文章構造を理解できておらず、何が具体で何が抽象なのか判断できないことに加え、批評的に読む力が乏しく、自分の主張を構築し、他者に伝えることを苦手とする生徒が多い。そのため、筆者の意図を見抜き、自分の主張を明確に掲げることが課題とし学習指導に当たる。 | <ul style="list-style-type: none"> 新聞(コラム)を活用した学習で、基本的な文章構成を理解させる。また、多様な表現や時事問題に触れさせることで、自分の主張を構築する上での知識量を増やす。 作文を書く指導を継続して行う。毎時間のNIE学習を踏まえて筆者の主張を捉え、自分の主張や体験がより明確に書けるようにする。 | |

令和5年度 授業改善推進プラン <社会>

| | 今年度の課題 | 改善策 | 年度末評価 |
|------|---|---|-------|
| 第一学年 | <ul style="list-style-type: none"> 授業に対して前向きに取り組める生徒が多く、授業中の集中力は高い。その中で、自分で試行錯誤して考えながら授業を受ける習慣がなかなかつけられていなかった。主体的に学ぶ力をつけさせていくことが課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎基本を身に付けることを引き続き徹底していく。その中で、生徒間同士で話し合いを活発にできる環境をつくる。そして、こちらから答えを提示することは避けるようにする。そして、今まで身に付けた力を使って考える習慣を付けさせる。 | |
| 第二学年 | <ul style="list-style-type: none"> 授業規律としては、一人一人の生徒が前向きに取り組めるようになってきた。基礎学力の定着と、情報や資料の読み取り、活用能力の育成が課題である。また、家庭学習の習慣化ができておらず、なかなか学力の定着に結び付かない。 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着のため、授業前半での前時の授業の振り返りを行う。また、引き続き、小テストを繰り返し開催し、学習の習慣を身に付けさせる。 家庭学習の習慣化のため、キュビナを定期的に宿題に出す。 | |
| 第三学年 | <ul style="list-style-type: none"> 授業には一人ひとり積極的に取り組み、教員の話や指示をよく聞いている。そのため、基礎基本の定着している生徒が増えてきた。しかし、地理と歴史、公民と歴史などを関連づけて深く考えることや、家庭で粘り強く学習に取り組む生徒が少ない。積極的に発言する姿勢や、身に付けた知識が必要な場面で、使う指導を行いたい。 | <p>【基礎基本を身につける】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業プリントに基礎内容を記入できる個所を作って記入させ、ワークに取り組みせ、チェックをして身に付けさせる。 <p>【表現・思考させる授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材を提示し、自分で考えたり、複数で考えさせる授業を行ったり、タブレットを利用した授業を行っている。今後は自分の意見と他者の意見をぶつけあい、思考を高める議論の場を作りたい。 | |

令和5年度 授業改善推進プラン <数学>

| | 今年度の課題 | 改善策 | 年度末評価 |
|------|--|--|-------|
| 第一学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解度の差が見られる。理解の難しい生徒については、まずは基礎・基本的な内容の定着を図りたい。また、取り組む前からあきらめることも多いことから、どんな解き方でもいいから問題を解決するための方法を考える姿勢を身に付けさせたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別での声かけや対応をこまめにしていくことを心がけ、基礎的・基本的な内容の定着に向けて、反復学習をしていく。授業の中で問題を解く時間をできるだけ多く取り入れ、繰り返し練習することで基本的な学習内容の定着を図る。また、AI学習を継続して取り組ませることによって、さらに理解の定着を図りたい。 | |
| 第二学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解度の平均値と中央値がともに低い。 ・文章の読解力に課題があるため、問題内容の把握で手間取る姿も見られる。 ・授業中に解けたことで満足してしまい、復習や練習を行わないため、定期考査等での結果につながらない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学び合い学習の形態を取り入れた授業を展開し、生徒によるサブティーチャーや教員によるスポット指導で理解度の底上げに取り組む。 ・より多くの類似問題に触れることで課題の全体像を把握する力を養う。 ・AI教材Qubena等を活用し、短時間かつ毎日の自主学習習慣を確立させる。 | |
| 第三学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解度の差と、学習に対する意識の差が見られる。特に、習熟が遅い生徒については、計算力も乏しい。 ・問題を様々な角度から捉え、考察する力が弱く、難しい問題に挑戦して取り組もうとする生徒が少ない。 ・理解ができなかった問題を、家庭で改めて復習しようとするのではなく、次の授業でも活用できずにいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・週に1度の取り出し授業を通して、計算力の向上を図る。また、朝学習などを通して副教材を活用して、計算等の基礎的な内容の復習を行う。 ・グループ活動を通して自分たちで応用問題を解く時間を作り、問題を解決したときの達成感を感じさせる。 ・課題を出し、次回の授業で確認したうえで新しい内容の授業を行う。 | |

令和5年度 授業改善推進プラン <理科>

| | 今年度の課題 | 改善策 | 年度末評価 |
|------|--|---|-------|
| 第一学年 | <p>①粘り強く学習を進めることができる力について ・基本的な知識などが、不十分な生徒が一定数いる。</p> <p>②理解しながら学習を進めることができる力について ・実験結果から考察するなど、論理的に考えることや、考えをまとめて発表することを苦手になっている生徒が多い。</p> | <p>①小テストなど確認プリントを繰り返し行うことで、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>②実験等のレポート作成や、調べたり討論したりするグループ学習を通して考えをまとめる力や発表する力を付ける授業を継続的に行っていく。</p> | |
| 第二学年 | <p>①粘り強く学習を進めることができる力について ・公式を利用した計算問題など、確実に解答できるようになるまで繰り返し学習をする姿勢が弱い生徒が多い。</p> <p>②理解しながら学習を進めることができる力について ・実験結果の考察など、なぜそうなるのかを考えながら学習を進めることに困難を抱える生徒が多い。</p> | <p>①-1 授業冒頭に小テストを行い、前時の学習内容を振り返る場面を毎時間設定する。</p> <p>①-2 単元テストを行い、授業内で繰り返し演習を行える機会を設ける。</p> <p>②学び合いの時間を授業内で必ず設定し、自らの言葉で説明する機会を設ける。</p> | |
| 第三学年 | <p>①粘り強く学習を進めることができる力について ・基本的な用語や計算など基礎的な知識を問われる問題でも苦手意識をもち、学習に対する姿勢が不足している生徒が多い。</p> <p>②理解しながら学習を進めることができる力について ・実験を行い、結果を適切に処理し、考察する力が弱い。数値などを読み取り、科学的に追究する姿勢が不足している生徒が多い。</p> | <p>①授業の冒頭に前時の復習を行い、振り返る時間を設けることで知識の定着を図る。また、単元ごとに復習する時間を設け、AI教材等を用いた上で、小テストを実施する。</p> <p>②グループ学習の際に、自分の考えを述べる時間を設け、科学的に追究する能力をグループ毎に向上していく。また、発表を行うことで説明する機会を設ける。</p> | |

令和5年度 授業改善推進プラン <技術>

| | 今年度の課題 | 改善策 | 年度末評価 |
|------|--|---|-------|
| 第一学年 | <p>【技術とものづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ものづくりの基本となる製作図の理解や、構想段階で簡単な立体を描くことができない生徒が増えつつある。設計・製図等の理解を深めようとする生徒もいる。また、物の大きさや寸法等が理解できず、正確な製図及び製作が難しい生徒がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 視覚効果を高める立体や作品の提示と、学習を効率よく進めるため、1人1台端末を活用しながら映像を交えた授業を行う。 単位の復習をする。 例、1cm=10mm。 | |
| 第二学年 | <p>【生物育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活における食べ物と、動物、水産生物の育成技術の関連を知らない生徒が多い。 学校で生育させるための環境を整えていく。 <p>【エネルギーの変換と利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組んでいるが、それを実生活に結び付けていくことができない生徒がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 学習プリント学習だけではなく、ICTを活用して、視覚的に理解させるようにした。 題材選びが重要であり、省スペースでかつ取り組み易いものを選んでいく。 実生活に結び付いた電気機器、機械など回路と仕組みの全体構造と部分構造の具体例を的確に示し、視覚効果を高めながら毎時の授業を展開する。 1人1台端末の活用で、回路や素子の仕組みを動画で学習し、理解度を高める。 | |
| 第三学年 | <p>【情報基礎】</p> <ul style="list-style-type: none"> パソコンに関する興味関心は高いが、情報モラルに関する稀薄な一面、パソコン自体のシステムトラブルや故障が多く、そのリカバリーができない状態である。 | <ul style="list-style-type: none"> パソコンスキルの格差の解消。 1人1台端末のデータ整理や容量整理をする。 興味・関心を高めるため、多岐にわたる応用ソフトウェアを有効活用する。 | |

令和5年度 授業改善推進プラン <家庭科>

| | 今年度の課題 | 改善策 | 年度末評価 |
|------|---|---|-------|
| 第一学年 | <p>【衣生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で学んだ知識や技能が定着されていないため復習に時間がかかる。 ・実験や制作を通して衣生活に関する興味関心が深まる教材選択が重要である。 ・衣生活に関する SDGsを取り上げる機会が少なかった。 <p>【食生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の意欲は非常に高いがただ食べたいという気持ちだけなので理論と実技を関連付ける必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・プリントの内容を簡素化し、毎時間A4・1枚を終わらせる。 ・実技や実験に時間をとり、時間内に終わり、まとめや振り返りができるようにする... ・興味関心が深く、生活に密着するような教材の選定が重要。 ・自分の健康を考えられるように、DVD、ICTを活用し視覚からとらえられる教材選定が大切。 ・実技や実験の回数を増やす。 | |
| 第二学年 | <p>【食生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生で学んだ知識をもとに実習を取り入れるが授業時間の調整が困難である。 ・1時間で完結する実習をもっとふやす工夫をする。 ・生活に密着した食の知識や興味関心をもてる教材選択と視覚でとらえる指導がたりない。 <p>【消費生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者としての自覚を持ち、生活の中で意識できる内容が重要。 ・視覚からとらえるよう、DVD、ICTの活用。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実習が効率よくできるように、十分な準備をし、個々の実技の向上を目指す。 ・安全面、衛生面に気を配り生活に活かせる、自ら考え、表現できる時間をつくる。 ・食に関するSDGsを取り入れ実践につなげる教材選定をする。 ・コロナ禍で経済や消費が話題にもなり、身近なものになり、意識が高まっているのでDVDの活用などで視覚的理解も重要。 | |
| 第三学年 | <p>【共に生きる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼いころの自分を振りかえることから、家族、家庭、地域の中で成長してきたことに気づき考えたが気づきやお思いに個人差がありすぎて意欲に差がでた。 ・実技や体験を多く取り入れ興味関心を深められる教材選定。 ・視覚からとらえる機会を増やす。DVD、ICTの活用。 | <ul style="list-style-type: none"> ・短時間で完成する児童文化財の制作では、ICTの活用が効果的である。 ・短時間で完了する実験や体験で幼児の生活と成長を理解させ、周囲の大人の役割や環境の重要性を理解させる。 ・ICTの活用により調べ学習を充実させる。 ・レポート作成を通して、理解を深め発表につなげる。 | |

令和5年度 授業改善推進プラン <美術>

| | 今年度の課題 | 改善策 | 年度末評価 |
|------|---|--|-------|
| 第一学年 | <ul style="list-style-type: none"> 美術の形や色彩、材料、光などの性質を基に、全体のイメージや作風などを捉えるという造形的な視点の基礎的な知識を理解するとともに、水彩絵の具の使い方など基礎的な技能を習得させる。 主題を生み出し豊かに発想して構想を練ることができ、造形的な見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 色の塗り方や道具の使い方の基礎・基本を細かく指導する。 参考作品を多く提示し、イメージに繋がりをやすくする。また、アイデアスケッチを行い、考え、構想する時間を確保する。 生徒同志の作品鑑賞活動を行い生徒自身の作品、態度、生徒自身の考えを自己確認させる。 | |
| 第二学年 | <ul style="list-style-type: none"> 造形的な視点を基に、意図に応じて自分の表現方法を追求して独創的、総合的に考え創造的に表すことができるようにする。 主題を生み出し豊かに発想し、構想を練ることができ、造形的な見方や感じ方を深めることができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な表現技法、材料、用具を名称と共に、制作順序を理解させ効果的な造形活動をさせる。 鑑賞活動、教科書掲載作品の読解を行い、造形活動や生活や社会の中の美術や美術文化に興味をもたせ、集中力のある授業環境をつくる。 生徒同志の作品鑑賞活動を行い生徒自身の作品、態度、生徒自身の考えを自己確認させる。 | |
| 第三学年 | <ul style="list-style-type: none"> 造形的な視点を基に自分の表現方法を、より発展させ総合的に考え創造的に表すことができるようにする。 完成を予想して制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表すことができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分で考え、自己発見ができるように制作する時間を多くとる。 鑑賞活動、教科書掲載作品の読解を行い、造形活動や生活や社会の中の美術や美術文化に興味をもたせ、集中力のある授業環境をつくる。 生徒同志の作品鑑賞活動を行い生徒自身の作品、態度、生徒自身の考えを自己確認させる。 | |

令和5年度 授業改善推進プラン <保健体育>

| | 今年度の課題 | 改善策 | 年度末評価 |
|------|--|---|-------|
| 第一学年 | <ul style="list-style-type: none"> 授業で取り組んでいる内容から、自分の課題を見つけ、解決するための努力をすることが苦手な子が多い。また、その場の雰囲気にならされ、判断を誤ってしまう生徒もいる。 グループで活動させ、話し合いや教え合い活動をするときも、リーダーシップを発揮する生徒が少なく、自分の意見や考えを伝えることが苦手な生徒が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業の指示の中でポイントを的確に伝え、グループの中で仲間の課題や自分の課題に気付かせ、の解決方法については指導の中で複数提示し、選択して解決させることで、みんなで協力して実践する雰囲気を作る。 1人1台端末を使用し、自分やグループの課題を見付け、活動を振り返り、改善策を考えさせ、実践させる。 グループ活動の中で出たグループや各個人の課題を、学習カードを利用して振り返り、次の授業に活かす仕組みを作る。 | |
| 第二学年 | <ul style="list-style-type: none"> 昨年度より「教え合い」「学び合い」学習活動を取り入れることで関わり合う場面は増えた。一方で仲間に関わることができず、受け身になりがちな生徒も存在する。 運動の好き嫌いの二極化が顕著である。 | <ul style="list-style-type: none"> 何を話し合うか、教え合うかを明確に示すことで、発言できない生徒も言語化し、コミュニケーションをとれるようにしていく。 運動が苦手な生徒でも興味を持ち、取り組める課題を設定し、スモールステップで各々が課題克服できる場を設定していく。運動が得意な生徒は、教え役や師範役だけでなく、みんなで楽しめるゲームのルール原案作りなどに関わらせ評価していく。 | |
| 第三学年 | <ul style="list-style-type: none"> 昨年度よりも意欲的に取り組む生徒が増え、リーダーとなる生徒も多くなったが、グループ活動の中では、課題解決に向けての意見をまとめたり、話し合ったりすることが苦手な生徒もいる。また、運動能力の差もある。 | <ul style="list-style-type: none"> グループ活動には、生活班などを活用しコミュニケーションを取りやすく設定する。 それぞれの種目で運動能力の差が出るので、グループでの課題、個人の課題を明確にさせ取り組ませる。学習カードを活用し目標達成に向けて毎時間振り返りをさせ次へつなげる。 | |

令和5年度 授業改善推進プラン <音楽>

| | 今年度の課題 | 改善策 | 年度末評価 |
|------|--|---|-------|
| 第一学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・元気に伸び伸び歌う雰囲気があるが、まだ表情良く歌うことができない。 ・音楽用語や音符の知識は乏しい。 ・静かに音楽鑑賞はできるが、気付いたことや感じたことを言葉にして表現したり、文章で表したりすることが難しいと感じる生徒が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・合唱コンクールを目標として授業を進める。 ・楽譜に読み方、意味を記入して歌唱を通して理解を深める。 ・鑑賞するポイントを明確にする。話し合いを通して他の人の意見を参考に、文章の工夫をする。 | |
| 第二学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に歌える生徒とそうではない生徒の差がある。 ・静かに興味を持って鑑賞ができるようになってきている。気付いたこと、感じたことを言葉に表したり、文章で表すことが難しいと感じる生徒が多い。 ・音符に対して抵抗がある生徒がまだ多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・合唱コンクールを目標とする。歌える生徒の模倣ができるよう声かけをする。 ・感じたことを自分の言葉で表現できるよう考えさせる。話し合い活動を通して表現の工夫ができるようにする。 ・繰り返し練習していく。簡単な創作活動を行い、自信がもてるようにする。 | |
| 第三学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に歌える生徒とそうではない生徒の差がある。 ・音楽を掘り下げて聴く力がない。一生懸命聞きとろうとしている。 ・創作については生徒に能力の違いがある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・合唱コンクールを目標とする。歌える生徒の模倣が出来るよう声かけをする。最上級生としての自覚を持たせる。 ・共通事項に沿って考えをまとめることが出来るようにする。自分の言葉で音楽のよさを伝えることができるようにする。 ・音符を正しく理解して、自由な発想で創作ができるようにする。 | |

令和5年度 授業改善推進プラン <英語>

| | 今年度の課題 | 改善策 | 年度末評価 |
|------|---|--|-------|
| 第一学年 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な語句(単語や慣用表現等)や文法事項の定着が十分でないため、自己表現や長文の読解につながらない。 | <ul style="list-style-type: none"> 音読の習慣を付けさせ、できる限り暗唱させる。 単語テストや基礎的なディクテーションなど反復練習のできる課題により、語彙や文法事項の基礎力の定着を図る。 生徒が英語を実際に使用する場面を多く設定し、生徒が英語で自らを表現する機会を重ねる。 定期的に単語テスト、教科書の読みテスト、英語でのやり取りのテストを行う。 | |
| 第二学年 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な語彙、文法事項の定着が不十分なため、既習事項を用いての自己表現につながらない。 言語活動の基礎となる反復練習に粘り強く取り組むことができない生徒が多く、言語を活用する技能、思考力、判断力の定着につながらない。 | <ul style="list-style-type: none"> 既習事項を用いての自己表現の機会を増やし、語彙、文法事項の定着を図るとともに、意欲的に語彙や新しい表現方法の獲得を図る一助とする。 反復練習の重要性を伝えていくとともに、意欲的に反復練習に取り組めるように単語テストや課題に工夫をしていく。 定期的に単語テスト、教科書の読みテスト、暗唱テストなどを行う。 パフォーマンステストやスピーチを定期的に設定する。 | |
| 第三学年 | <ul style="list-style-type: none"> 外国語理解の能力に課題がある。基本的な語彙、文法事項の定着が十分でないため、長文を正しく読み取り、内容を概ね理解する力が定着していない。 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書の音読、多読の機会を増やす。授業での単語テスト、学期ごとのリーディングテストを実施する。 長文読み取りドリルやワークブックを活用し、長文の多読を図る。 教科書の学習内容に関連した長文を読む。また、実際の入試の長文読解の問題を解く。 ESAT-Jに対応したスピーキングの基礎練習を行う。 | |